


| | | | |
|---------------|-----|---|------------------|
| 分野 | 12 | 就学前教育・保育 | 通番 11 |
| 施策 | 121 | 就学前教育・保育基盤の充実 | |
| 5年後の目標 | | 待機児童が解消し、子育てをしながら安心して仕事を続けられる環境が充実している。 | |

| 概要 | | | | | | | | |
|--|------------------|--|------|---|---|--------|------------|-------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | 保育所施設整備事業 | | 会計 | 款 | 項 | 目 | 58,965,500 | 福祉政策室 |
| | | | 一般 | 3 | 2 | 2 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | | |
| 待機児童を解消するため、公立保育所の増築・改築等の整備を行うとともに、民間保育園の設立を支援し、入所定員の増員を図ります。 開田保育所は、移転・新築で平成28年4月、神足保育所は、増築・改修で平成30年4月、新田保育所は、移転・新築で平成31年4月にそれぞれ開所します。 | | | | | | | | |


| 令和2年度の取組 | | | | | | | |
|---|------------------------------------|---------------------|---------------------|----|---|-------|-------|
| D (取組) | 指標(～H29年度) | 公立保育所の耐震化割合(5施設) | | | | 単位 | — |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
| | 3/5(神足、深田、滝ノ町保育所が耐震化済) (平成26年度) | 目標 | 4/5 (開田保育所耐震化完了) | | | | |
| | | 実績 | 4/5 | | | | |
| | 指標(H30年度～) | 公立保育所及び民間保育園の利用定員合計 | | | | 単位 | 人 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
| | 1,510 (平成29年度) | 目標 | | | 1,708 | 1,911 | 1,911 |
| | | 実績 | | | 1,740 | 1,891 | 2,111 |
| | 指標 | 4月1日時点待機児童数 | | | | 単位 | 人 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
| 28(平成26年度) | 目標 | 60 | 50 | 20 | 0 | 0 | |
| | 実績 | 78 | 60 | 72 | 69 | 35 | |
| ・施設整備費の助成を行った民間の認可保育園(長岡京コペル保育園)が令和2年4月に開園しました。 | | | | |  | | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | |
|-------------------|--|------------------------------|---|-----|
| 令和2年度の達成状況 | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応頁 |
| | | 保育所希望入所率 | ・小規模保育施設等の継続した施設整備により、保育ニーズへの対応については概ね改善していますが、今後の大規模マンション開発等による保育ニーズの増加や、小規模保育施設卒園児の受け入れの状況を把握するとともに、新型コロナウイルスの影響による出生数の減少にも配慮が必要です。 | 193 |
| | 達成度合 | B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度) | ・令和2年4月に長岡京コペル保育園(定員110名)が開園しました。 ・公立、民間保育園(小規模含む)をあわせた利用定員は、令和2年4月1日時点で2,111名(昨年度比220名増)となっています。 | |
| 課題等 | ・公立保育所の増改築や民間保育園の設立支援により利用定員は年々増加し、待機児童は令和2年4月1日時点で35名と、昨年度比34名減となりました。保育ニーズを見定め、引き続き保育環境の充実を図ることが求められます。(令和2年度の待機児童数は入所保留者数から育休延長減点適用者(10名)を差し引いた数値です。) | | | |

| 次年度以降の対応 | | |
|-----------|------------------|---|
| A (行動) | 方向性 | 対応策等 |
| | 1: 計画通りに進めることが適当 | ・今後のマンション開発等による保育ニーズの増加、新型コロナウイルスの影響による出生数の減少等も注視しながら、引き続き保育環境の充実に向けた検討をしていきます。 |

| | | | |
|---------------|-----|---|------------------|
| 分野 | 12 | 就学前教育・保育 | 通番 12 |
| 施策 | 121 | 就学前教育・保育基盤の充実 | |
| 5年後の目標 | | 待機児童が解消し、子育てをしながら安心して仕事を続けられる環境が充実している。 | |

| 概要 | | | | | | | |
|--|------------------|--|------|----|--------|--------|-------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | もうすぐ一年生事業 | | 会計 | 款 | 項 | 49,996 | 学校教育課 |
| | | | 一般 | 10 | 1 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | |
| 幼稚園や保育所等の幼児が小学校へ体験入学することで、小学校入学後の生活習慣や学習習慣の変化に対応できるようにします。 また、保育所・保育園・幼稚園等と小学校の教員による、保幼小連携会議で互いの教育・保育内容の理解を深め、就学前機関から小学校への円滑な移行を図ります。 | | | | | | | |

| 令和2年度の取組 | | | | | | | |
|---|----------------|----------------------|----|----|---|----|----|
| D (取組) | 指標 | 「もうすぐ一年生事業」に取り組む小学校数 | | | | 単位 | 校 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
| | | 目標 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | 10(平成26年度) | 実績 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・代替措置も含め、令和2年度は次の取組を実施しました。 ○小学校生活を紹介するビデオを作成し、就学前施設へ配布しました。 ○小学校入学に向けた保幼小の連携グループ別連絡会を実施しました。(市内10小学校、5公立保育所、5私立幼稚園、6民間保育園、3認定こども園) ・計画はしていましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため次の取組は実施できませんでした。 ○各小学校での給食体験及び学習体験等が実施できませんでした。(5年生又は1年生等との交流) ○小学校の教室にて小学校教員による一斉スタイルの授業体験が実施できませんでした。(授業はじまり・おわりの挨拶、先生の指示、挙手発言、プリント配付等) ○「長岡京市保幼小連携会議全体会」の開催ができませんでした。(「実践報告」「もうすぐ一年生事業の趣旨説明」「講演会」「日常的取組等の計画」) | | | | | 授業体験(以前の取組より) | | |
| | | | | |  | | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | |
|-------------------|------|--------------------------------|---|-----|
| 令和2年度の達成状況 | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応員 |
| | | — | — | — |
| C (評価) | 達成度合 | A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとって、小学校生活へ期待を膨らませるとともに不安を解消する良い機会となっています。 ・教職員にとっては、相互の指導・支援方法を交流することで、就学前機関から小学校への接続を意識し、幼児・児童への指導支援に活かされています。 ・小学校児童にとっては、幼児と交流することで、自己有用感を高める良い機会となっています。 ・全体研修会やもうすぐ一年生の具体的な活動を通し、小学校と就学前機関との連携が深まり、接続カリキュラムの重要性について共通理解ができています。 | |
| | 課題等 | | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、交流や体験の実施が難しくなっていますが、保幼小連携の効果は大きく、これまで築いてきた連携体制を継続していくことが何より大切であると考えます。 ・給食体験の実施にあたっては、幼児の食物アレルギーについて、より一層の徹底が必要です。 ・相互の学びや理解をより深めるために、公開保育や小学校の研究発表会への積極的な教員の参加が望まれます。 | |

| 次年度以降の対応 | | |
|-----------|------------------|---|
| A (行動) | 方向性 | 対応策等 |
| A (行動) | 1: 計画通りに進めることが適当 | ・新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ取組内容の充実を図ることにより、全ての小学校と市内の全ての保育所・保育園・幼稚園の連携のもと、教職員のみならず保護者も含め、保幼小連携の意識を高めるとともに、積極的な教員の参加を促していきます。 |